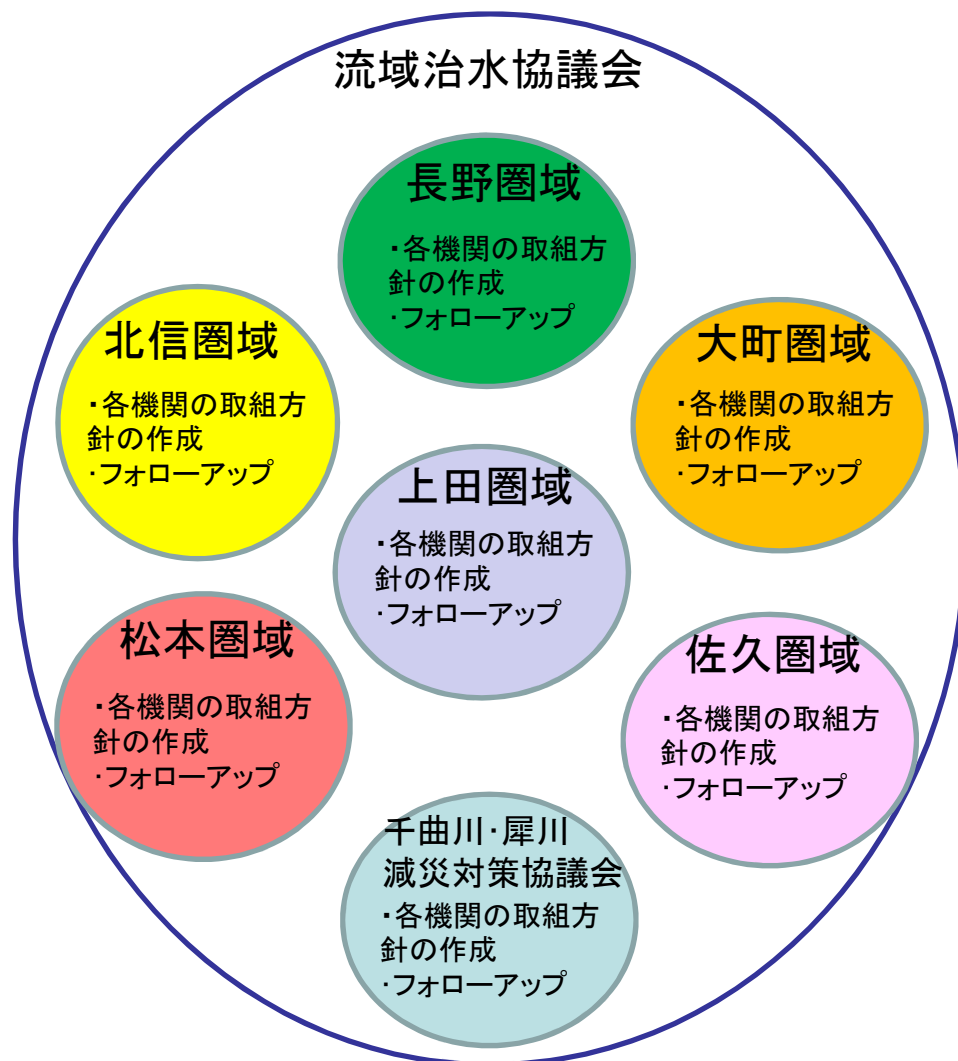


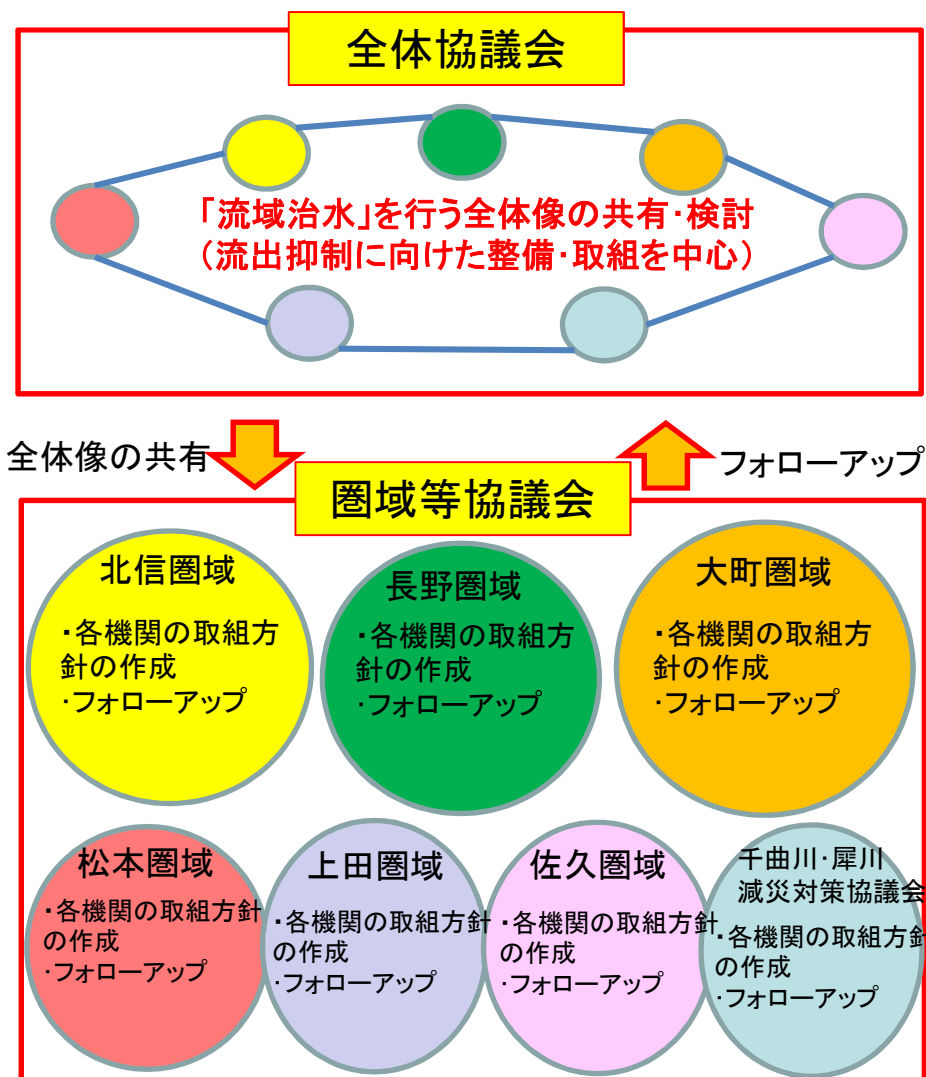
千曲川流域治水サミット及び
信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会
全体協議会について(情報共有)

信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会 全体協議会の設置について

これまでの流域治水協議会(～R4.2)



これからの流域治水協議会(R4.2～)



流域治水協議会全体協議会及び千曲川流域治水サミットの開催概要について

- ・「流域治水」を行う全体像の共有・検討（流出抑制に向けた整備・取組を中心）の場として、流域治水協議会に「全体協議会」の枠組みを新たに設置
- ・第1回全体協議会を令和4年2月9日に開催

上記、全体協議会では

- ① 上流、下流の交流により流域全体の防災意識の向上が図れる
- ② 流域治水の数値目標を設定することが必要 など

のご意見を頂戴したところ

①

千曲川流域治水サミット

- 上流（長野県）と下流（新潟県）双方の市町村長による取組内容・課題の共有
- ・現在の取組内容・課題の共有 など
- ・下流（新潟県）側の取組事例の紹介

②

流域治水協議会全体協議会

- 数値目標の設定にあたる課題整理のための基礎資料を提示
- ・流域内に存する洪水貯留を行いうる諸施設の現状や特徴の考察
- ・当該考察に関する協議・検討

流域治水の全体像の共有・検討をより深化させていく

千曲川流域治水サミットを初開催（令和5年1月30日）

～千曲川・犀川流域における流域治水について、市町村長等と意見交換～



○信濃川水系の「流域治水」を一体的に進めるため、上流（長野県）と下流（新潟県）双方の市町村長が取組内容・課題の共有を図る場として「千曲川流域治水サミット」を長野市内で初開催。

○信濃川流域の32市町村長が現地又はwebにて参加（現地：24名、web：8名）。

- 日 時 = 令和5年1月30日（月）14:00～15:30
- 開催方法 = 長野市生涯学習センター・WEB会議での併用開催
- 事務局 = 国土交通省 千曲川河川事務所・長野県 河川課
- 現地参加数 = 長野県内：25市町村（市町村長＝23名、代理＝2名）
新潟県内：1市（三条市長）
- web参加数 = 長野県内：16市町村（市町村長＝7名、代理＝9名）
新潟県内：12市町村（長岡市長、代理＝11名）



長野県 阿部知事による挨拶

長野県知事挨拶（ビデオメッセージ）

- 台風19号災害（東日本台風災害）について、市町村長の皆様には、災害応急対策において、第一線で陣頭指揮を取っていただき、住民生命・財産を守るための活動に尽力いただいことに感謝
- 今回のサミットは、「長野県における流域治水協議会の全体協議会の場において、上下流一体で課題や取組を共有すべきではないか」という意見を踏まえ、国土交通省と長野県とで開催
- 上流部・下流部のお互いの悩みや課題を相互に知り合うことによって、流域全体で最適な治水のあり方を共に考えていく機会としたい

<次第>

1. 開会

2. 挨拶

長野県知事 阿部守一（ビデオメッセージ）

3. 議事

- ①流域治水の実践事例について
- ②話題提供（新潟県三条市長、長岡市長）
- ③流域治水を一步進めるためのアイデアについて
- ④まとめ

4. 閉会

主な意見交換の内容

①流域治水の実践事例について

- ため池低水位管理、雨水貯留・浸透施設設置補助金制度、雨水調整池の整備などの流出抑制の取組を実施＜長野市長＞
- 市民目線を心がけたSNS発信及び垂直避難が可能な民間施設との協定締結を推進＜千曲市長＞
- 令和元年東日本台風を契機に北相之島地区のコミュニティタイムラインの作成＜須坂市長＞

③流域治水を一步進めるためのアイデアについて

- 河川の浚渫事業推進に向け、土砂の搬出場を市で整備＜佐久市長＞
- 学校のプールなど、既存施設を活用した雨水貯留・流出抑制＜飯山市長＞
- 畑のマルチビニールによる雨水流出が課題であり、遊水地などによる雨水貯留を検討＜川上村長＞



サミット集合写真



開催状況（会場）



開催状況（WEB）

話題提供（三条市・長岡市）

新潟県三条市

- 新潟・福島豪雨（H16.H23）
- MIZBERING SANJO
- 浸水検知センサー



滝沢三条市長

新潟県長岡市（WEB）

- 令和元年東日本台風
- 長岡方式の避難行動
- 大河津分水路改修による治水効果



磯田長岡市長

話題提供（北陸地方整備局 河川部）

○多くの方々に「治水の大切さ」を伝えたい



安達河川部長

- 流域治水を進めるにあたり、多くの方々に「治水の大切さ」や「水害のリスク」等をしっかりと伝えていくことが大切と考えています。
- このため、治水に関わる多くの方々と連携し、今後とも、いろいろな形で、その大切さを伝えていきたいと考えています。

（話題提供資料より）

サミットのまとめ

- 流域全体の治水安全度の向上を目指す
- 「流域治水」の取組の更なる深化の重要性を再確認
- 積極的な情報発信を行い、治水を「わがこと」に
- 雨水貯留や住民避難など、できる水災害対策を一步步
- “流域市町村長の顔の見える関係”を大切に

令和4年度 信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会全体協議会 (令和5年1月30日)

～千曲川・犀川流域における流域治水について、市町村長等と意見交換～



○千曲川流域における流域治水の更なる推進、またその全体像を共有・検討する場として、流域内の市町村長等が参加し、流域治水の目標設定に向けた意見交換を始める。

○信濃川水系の上下流域の交流を目的とした「千曲川流域治水サミット」と併せて開催し、千曲川流域の**31市町村長**が現地又はwebにて参加(現地:23名、web:8名)。

- 日 時 = 令和5年1月30日(月) 15:40～16:30
- 開催方法 = 長野市生涯学習センター・WEB会議での開催
- 事務局 = 国土交通省 千曲川河川事務所・長野県 河川課
- 現地参加数 = 25市町村(市町村長=23名、代理=2名)
- web参加数 = 16市町村(市町村長=8名、代理=8名)

<次第>

1. 開会

挨拶:長野県建設部長 田中 衛

2. 議事

- ①信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会規約改正について
- ②流域治水の目標設定に向けた現状考察
- ③流域治水の本格的実践「継続と深化」
- ④質疑応答・意見交換

3. 閉会

<構成機関>

長野市、松本市、上田市、須坂市、小諸市、中野市、大町市、飯山市、塩尻市、佐久市、千曲市、東御市、安曇野市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町、長和町、青木村、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村、池田町、松川村、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、飯綱町、小川村、栄村、長野地方気象台、関東農政局農村振興部、中部森林管理局北信森林管理署、中部森林管理局中信森林管理署、中部森林管理局東信森林管理署、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター長野水源林整備事務所、国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所、国土交通省北陸地方整備局(大町ダム管理所、湯沢砂防事務所、松本砂防事務所、千曲川河川事務所)、長野県(環境部生活排水課、農政部農地整備課、林務部森林づくり推進課、建設部河川課、建設部砂防課、建設部都市・まちづくり課、建設部建築住宅課、佐久建設事務所、上田建設事務所、松本建設事務所、安曇野建設事務所、大町建設事務所、千曲建設事務所、須坂建設事務所、長野建設事務所、北信建設事務所)

<オブザーバー>

信州大学工学部水環境・土木工学科 吉谷純一教授、豊田政史准教授、NHK長野放送局、信越放送(株)、(株)長野放送、(株)テレビ信州、長野朝日放送(株)

長野県建設部長 挨拶



田中建設部長

○「信濃川水系(信濃川上流)流域治水協議会全体協議会」は、千曲川流域における「流域治水」の全体像を共有する場として、1年前に設置
○昨年の全体協議会での意見、「上下流での交流」を踏まえて、今回「千曲川流域治水サミット」を同日開催
○第2回の協議会については、「雨水貯留を進めていくためには、数値目標を設定することが必要ではないか」とのご意見を踏まえ、「流域治水の目標設定に向けた現状考察」の検討状況を千曲川河川事務所より報告
「流域治水の本格的実践『継続と深化』」の取組状況を国、県の関係機関より報告

主な意見交換の内容



青木村
北村村長

「緑のダム」という言葉があるとおり、森林の持つ保水能力に着目してはどうか。



南相木村
中島村長

上流域の自治体として出来ることは、なるべくやりたいと考えている。貯留タンクなどは設置費用が高く、補助金を付けても住民まで取組が浸透しないことが課題。



小川村
染野村長

昨年8月の豪雨では降水時間3～4時間の間に160～170mmという局地的な豪雨となり、これまで経験したこのない、災害が発生し、豪雨災害の激甚化、頻発化している。

学識者からの意見



信州大学 吉谷教授

大学としても流域治水に協力できるような体制づくりができないうと模索している。
犀川流域には、貯留施設が多くあるが、千曲川流域には、水を貯められる施設はわずかしかない。事前放流の取組も、犀川では大きな効果を発揮するが、千曲川本川では厳しい状況。千曲川本川は貯留施設が非常に少ないなかで、信濃川水系河川整備計画の変更では、千曲川本川(杭瀬下)での計画流量を増加し、治水安全度を向上する計画になっており、どのように実行していくのか非常に難しい大きな課題と認識している。



信州大学 豊田准教授

流域治水という新しいことをしないといけないと考えてしまうが、これまで各市町村、国、県が取り組んできても流域治水の取組であると思う。大河川を対象とする、あるいは、地先を対象とするということで取組も変わってくると思うので、どこを守りたいかを考えながら取組を進めていただければと思う。

全体協議会のまとめ

- 全体協議会や流域治水のキャラバン等を通じて市町村にも情報共有するとともに一緒になって取組を推進
- 千曲川本川、あるいは犀川の降雨特性を含めた地域特性、あるいは施策の特徴や効果などを踏まえて、流域治水の全体像、数値目標をしっかりと見据えながら、ハード対策・ソフト対策の事前防災対策を加速させる
- 国・県・自治体だけでなく住民や民間事業者などを含めたそれぞれのプレイヤー、実施主体が責任感を持って、できる取組から流域一体となって流域治水の取組を推進することが重要



開催状況(会場)

～千曲川・犀川流域における流域治水について、市町村長等と意見交換～



- 令和5年1月30日に開催した「千曲川流域治水サミット」について概要をまとめたリーフレットを作成しました。
○各機関に配布しますので、流域治水の広報等の取組にご活用いただければ幸いです。

[illegible][illegible][illegible]